

七十年間、その時計は
その時間で止まっている。

知り、考えることで

少しだけ背負ってみる

暗く深く耐えきれない重さの

あの日を

70年前、夏の終わりを

迎えられなかつた人が大勢いた。

一瞬にして 原爆の日

永遠に 原爆の日

今、ここで平和を語れるこの平和。

原爆の日をわすれないよう

かたりついでいこう原爆の日

いつまでも つなげていこう

ぎせい者の思い

8月だから思い出してほしい、
ぼくたちの未来のために。

みんなは、考えた事ある？

生きる価値と大切さ、

あの日を忘れずに……

ふつうの日はとつぜん変わった。

私たちは原爆の恐ろしさを知らない。

しかし、原爆の日は知っている。

8月　せみの声とともに考えよう

原爆の日

向かいあえ、恐怖や嫌悪に。

恥じらいをもて、

知らないという事実。

「二」つの爆弾

『億』の苦しみ

中山 広貴 12歳

知っている事だけでいいから
まわりの人に伝える

平和を語り継ぎ、

戦争の悲惨さを感じれば、

原爆の日は忘れることはできないと思う。

日本は本当に

平和の道へ進んでいるのか？

平和を保ち続けるために、

自分の目に焼き付けていないものを

心に焼き付けることが

今の私たちに来ること。

原爆を作ったのも人間で

原爆で悲しんだのも人間だった。

平和をこわすのは私たち人間。

でも、平和をつくるのも私たち人間。

原爆が落とされてから今まで、

多くの人が亡くなり、

多くの人が原爆症に苦しんでいる。

70年、重みはずつと変わらないだろう。

「原爆の日」を忘れるような
社会になつたところには、
「平和」という言葉も
きつと忘れているのだろう。

今、地球上に存在する原爆は、
70年前に何十万人もの未来を奪った。

語り伝える、使命がある。

「そんなことがあつたんだ」
ではすまされない。

原爆の日には、広島や長崎の人たちだけが、
もくそうとかをやるんではなく、

北海道から沖縄まで、

すべての日本国民が、

もつと原爆の日には何かをやるべきだと思う。

3000度〜4000度の温度を

体験したことがあるだろうか。

毎年その日は来る、
毎日その時間は来る。

語り手が　いなくなつても

僕達が　きちんと学び

伝え続ける。

「過去を学んで未来を見る」
忘れてはいけけないのではない、
学ばなければいけないのだ。

忘れてはいけない。

あの朝の出来事は、

たくさんの人の喜びも幸せも

一瞬にして悲しみに変えたものだから。

70年前、瞳に何が写っただろう。

北川 莉那

14歳

「昔のこと」ではない「今のこと」

中島 健介

14歳